

平成 29 年度 第 4 回 横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会 議事録	
日 時	平成 29 年 5 月 29 日 (月) 16 時 00 分～17 時 40 分
開 催 場 所	横浜市庁舎 5 階関係機関執務室
出 席 者	委員 6 名：岸井委員長、治田副委員長、足立委員、国吉委員、西田委員、野原委員 事務局（都市整備局）： 薬師寺局長、高瀬都心再生部長、黒田都心再生課担当課長 ほか
欠 席 者	石川委員、矢ヶ崎委員
開 催 形 態	非公開
次 第	1 教育文化センター跡地活用 事業者公募の内容（案）について 2 エリアデザインブックについて
概 要	<p>議題について事務局から資料の説明をした後、委員による協議を実施 （主な発言要旨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今回と次回で教育文化センター跡地活用事業の募集要項とエリアデザインブックの内容を議論したい。 ○教育文化センターの公募は、現市庁舎街区と連携していくのか。どういった形で連携できるかというニュアンスが見えるようにすることで提案の幅が広がってくる。 ○教育文化センターをベースとして、現市庁舎街区を含めた活動に展開していくのが望ましい。現市庁舎街区へ上手く繋がる期待ができるような提案が出てくれば良い。 ○今回は売却なので、良い提案が出てきてもその実現性を検証しないと後から止めることができない。その点は注意する必要がある。 ○教育文化センターは条件付きとはいえ、売却となるため、市が縛れる部分に制約がある。その点についても議論したうえで提案を求めることが重要。 ○採点については、「国際的な産学連携」「観光集客」というテーマの、それぞれを評価するのか、それともどちらかを評価するのか。複合しても良いのか。評価の基準を明確にした方が良い。 ○公募時の提案の求め方（応募書類・提案者ヒアリング等）を整理していただきたい。 ○提案項目は、市が何を求めているかというメッセージになるので、工夫した方が良い。 ○エリアデザインブックでは、どのようなものを誘導しようとしているのか。実施方針や募集要項等との関係してくるため、位置付けを明確にしておく必要がある。さらに内容を詰めたものを、次回示していただきたい。 ○エリアデザインブックのイメージの確認や、審査基準や審査の流れ、提案様式について次回議論したい。 <p style="text-align: right;">以上</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> 1 議事次第 2 委員名簿 3 教育文化センター跡地活用事業 事業者公募の内容（案）について 4 エリアデザインブックについて